

本市が目指す「コンパクトシティ」とは？

多極型を目指します

一極集中ではなく、那須塩原駅、黒磯駅、西那須野駅の各駅周辺と関谷地区という複数の拠点を中心に集約をしていきます。



全人口の集約ではありません

例えば、農業を営む人が周辺部に住み続けられるように、ライフスタイルに合わせた集約を進めます。



長い時間をかけて緩やかな誘導

急激な変化を求めるのではなく、各地域に住む人が最大限にメリットを受けられるよう、長期的に集約していきます。



市立地適正化計画 Q&A

Q 都市機能誘導区域ではないところに施設を建ててはいけませんか？

A 制限はありません。

ただし、都市機能誘導区域ではないところに大型の商業施設や銀行など、特定の施設を建てる場合などには、市への届け出が必要です。



Q 居住誘導区域ではないところに住んではいけないのですか？

A 一戸建て住宅の建築に制限はありません。

ただし、居住誘導区域ではないところに3戸以上の住宅を建てる場合や大規模な土地の造成を行う場合などには、市への届け出が必要です。



Q 都市部だけを守って農村集落部は切り捨てられてしまうのですか？

A 都市部だけではなく、全てのライフスタイルを尊重します

強制的に拠点へ集約するのではなく、住み替えの機会があれば拠点に住んでもらえるように集約をしていきます。地域の特徴や歴史的な成り立ちを軽視するものではありません。



- 立地適正化計画区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域



未来へ向けて 新たなステップ

新しいまちづくりへ向けて策定された「市立地適正化計画」。駅を中心にしたコンパクトシティ実現のために、具体的にどのような取り組みが行われるのか紹介します。

目的「コンパクトシティ」区域を指定

コンパクトシティに転換していくために、市では今年の3月に「立地適正化計画」を作りました。この計画では、那須塩原、黒磯、西那須野の3つの駅と関谷地区を中心とした拠点の形成を目指しています。この目標に向けて、2種類の区域を設定しました。一つ目は、家の建替えや引っ越しをする人に新たに住んでもらうことを促す「居住誘導区域」。二つ目は、大型のショッピングセンターや銀行など生活サービスに必要な施設を維持するための「都市機能誘導区域」。

目的ごとに区域を指定することで、一定のエリアに住居と施設を集めることが期待できます。それにより、徒歩や自転車でも生活することができ、たとえ車が使えなくなっても現在と同じ生活水準を保つことができます。また、4つの拠点を行き来する公共交通を確保することで、それぞれの地域に足りないものを補い、まち全体の暮らしやすさを守っていきます。

利用してみませんか？

建替えや解体の補助をしています



耐震改修・耐震建替え補助

昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断、補強計画策定、耐震改修、耐震建替え費用の補助が受けられます。

「市立地適正化計画」の居住誘導区域で改修または建替えを行うと、最大10万円が加算されます。

建築指導課 ☎0287(62)7169



空き家等解体費補助

倒壊の危険や衛生上の問題などにより、「特定空き家等」と認められた場合に解体費の1/2(上限50万円)が補助されます。

「市立地適正化計画」の居住誘導区域で解体を行うと、補助の上限が70万円になります。

都市整備課 ☎0287(62)7162

黒磯駅周辺でも はじまる立地適正化計画

駅の周辺に交流センターや図書館を作ると同時に駅前広場などのインフラ整備もすることで、駅周辺を拠点ににぎわいを生み出します。



まちなか交流センター

「人と食を育む交流の家」を基本コンセプトにして、誰もが気軽に訪れ、くつろげる空間を目指しています。地域住民や観光客の交流の場として地元特産品の販売などを行っていきます。



(仮称) 駅前図書館

現在の黒磯図書館を移設し、機能充実を図りながら、ゆったりとした森の中をイメージした図書館を整備します。



黒磯駅西口広場

地域の顔として、来街者をおもてなしするため、歩行者と車両の明確な区画を行い、安全性と利便性を向上させます。